

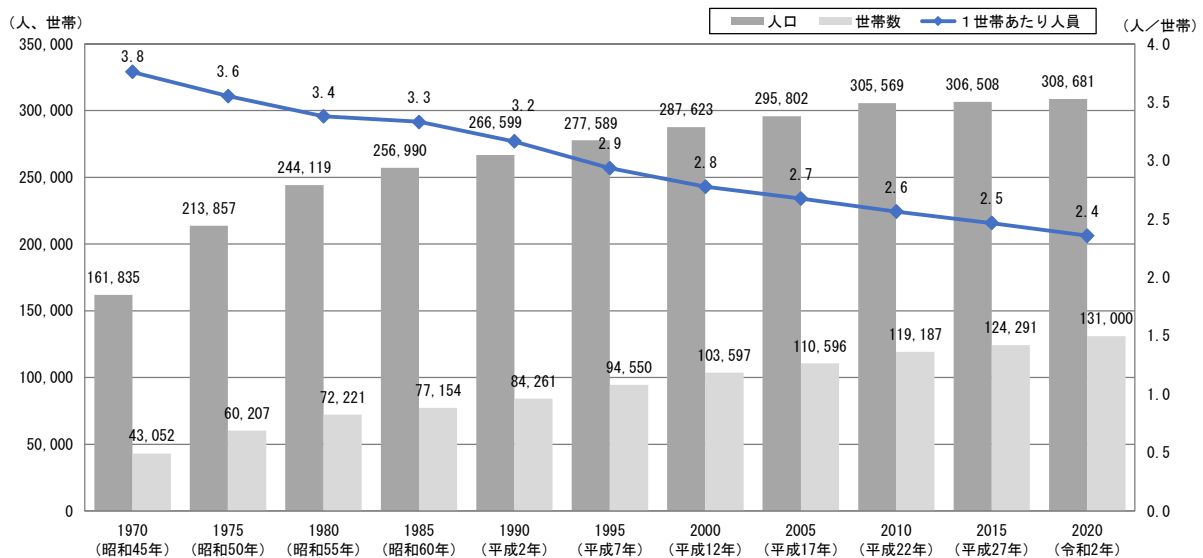
## 第3章 春日井市の現況と課題の整理

### 1 人口

#### (1) 人口・世帯数

- ◆人口、世帯数ともに増加傾向となっています。
- ◆2020年（令和2年）時点で、人口は308,681人、1970年（昭和45年）から90.7%の増加、世帯数は131,000世帯、204.3%の増加となっています。
- ◆人口増加の割合に対して世帯数増加の割合が高いことから、1世帯あたりの人員は減少しており、2020年（令和2年）時点で2.4人/世帯となっています。

【図3-1 人口・世帯数の推移】



	1970 (S45)	1975 (S50)	1980 (S55)	1985 (S60)	1990 (H2)	1995 (H7)	2000 (H12)	2005 (H17)	2010 (H22)	2015 (H27)	2020 (R2)
人口(人)	161,835	213,857	244,119	256,990	266,599	277,589	287,623	295,802	305,569	306,508	308,681
人口増加指数	-	32.1	50.8	58.8	64.7	71.5	77.7	82.8	88.8	89.4	90.7
世帯数	43,052	60,207	72,221	77,154	84,261	94,550	103,597	110,596	119,187	124,291	131,000
世帯増加指数	-	39.8	67.8	79.2	95.7	119.6	140.6	156.9	176.8	188.7	204.3
1世帯あたり人員	3.8	3.6	3.4	3.3	3.2	2.9	2.8	2.7	2.6	2.5	2.4

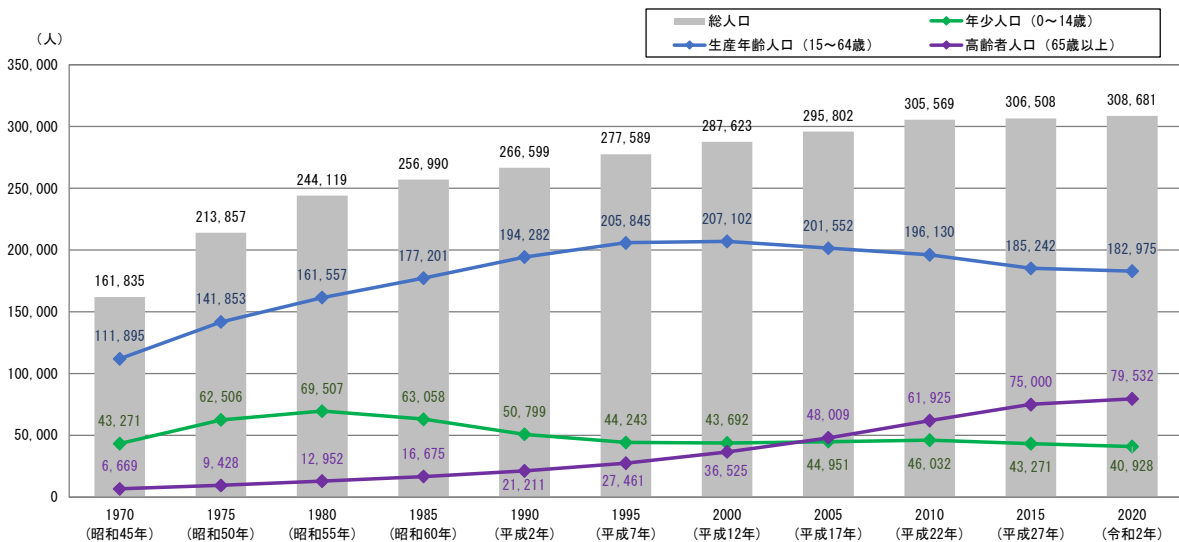
※ 増加指数は、1970年に対する値です。

資料：1970年（昭和45年）～2020年（令和2年）国勢調査

(2) 年齢別人口

- ◆年少人口（0～14歳）は、1980年（昭和55年）の69,507人をピークとして減少傾向にあり、2020年（令和2年）時点で40,928人となっています。構成比は、1975年（昭和50年）の29.2%をピークとして減少傾向にあり、2020年（令和2年）時点で13.3%となっています。
- ◆生産年齢人口（15～64歳）は、2000年（平成12年）の207,102人をピークに減少に転じており、2020年（令和2年）時点で182,975人となっています。構成比は、1995年（平成7年）の74.2%をピークとして減少に転じており、2020年（令和2年）時点で59.3%となっています。
- ◆高齢者人口（65歳以上）は、一貫して増加傾向にあり、2020年（令和2年）時点で79,532人となっています。構成比は、1995年（平成7年）までは比較的緩やかな増加傾向でしたが、2000年（平成12年）に10%を超えて以降、大きく増加しており2020年（令和2年）時点で25.8%となっています。

【図3-2 年齢別人口の推移】



	1970 (S45)	1975 (S50)	1980 (S55)	1985 (S60)	1990 (H2)	1995 (H7)	2000 (H12)	2005 (H17)	2010 (H22)	2015 (H27)	2020 (R2)
総人口(人)	161,835	213,857	244,119	256,990	266,599	277,589	287,623	295,802	305,569	306,508	308,681
年少人口(人)	43,271	62,506	69,507	63,058	50,799	44,243	43,692	44,951	46,032	43,271	40,928
構成比(%)	26.7	29.2	28.5	24.5	19.1	15.9	15.2	15.2	15.1	14.1	13.3
生産年齢人口(人)	111,895	141,853	161,557	177,201	194,282	205,845	207,102	201,552	196,130	185,242	182,975
構成比(%)	69.1	66.3	66.2	69.0	72.9	74.2	72.0	68.1	64.2	60.4	59.3
高齢者人口(人)	6,669	9,428	12,952	16,675	21,211	27,461	36,525	48,009	61,925	75,000	79,532
構成比(%)	4.1	4.4	5.3	6.5	8.0	9.9	12.7	16.2	20.3	24.5	25.8

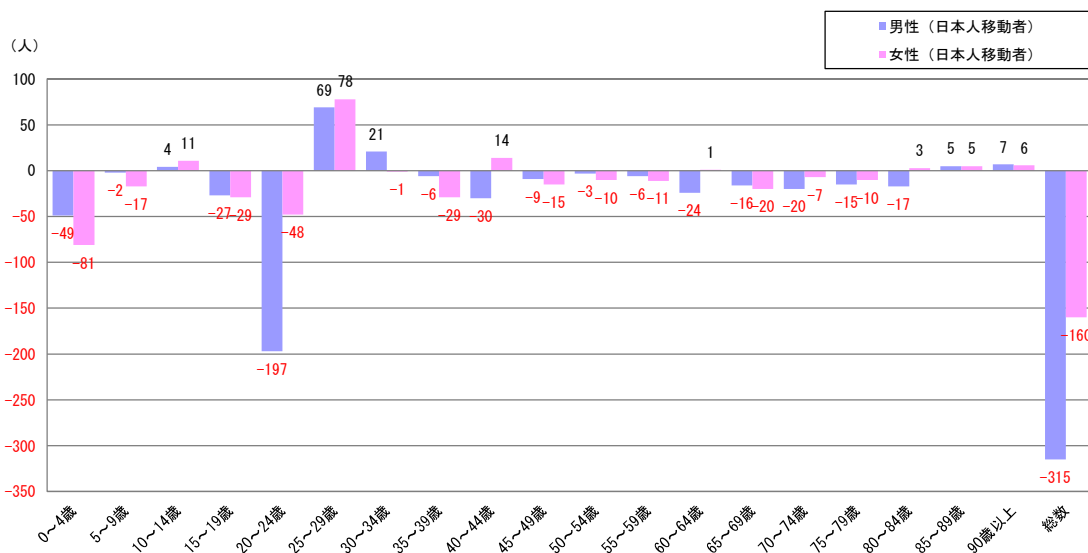
※ 総人口は年齢不詳を含むため、各年代の人口の合計と一致しません。

資料：1970年（昭和45年）～2020年（令和2年）国勢調査

(3) 年齢別転入・転出

- ◆25～29歳は大きく転入超過となっています。これは進学や就職に伴って転出した後、結婚等を機に転入している状況が考えられます。一方で、10歳未満や15～24歳、35～44歳の年代で転出超過が大きくなっていることから、進学、就職や子育て世代の住宅購入等を機に転出している状況が考えられます。
- ◆転入が転出を上回る年代（10～14歳、25～34歳、85歳以上）の転入元をみると、男女ともに隣接する名古屋市守山区や小牧市をはじめ、愛知県下の市区町村が多くなっています。
- ◆転出が転入を上回る年代（上記年代以外）の転出先をみると、男女ともに隣接する名古屋市守山区や小牧市をはじめ、名古屋市を中心に愛知県下の市区町村が多くなっています。

【図3-3 年齢別の転入・転出超過数 2022年（令和4年）】



男性（日本人移動者）

	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	総数
転入	315	114	49	292	1,024	1,116	713	464	283	244	230	141	84	57	43	20	25	24	18	5,256
転出	364	116	45	319	1,221	1,047	692	470	313	253	233	147	108	73	63	35	42	19	11	5,571
転入超過	-49	-2	4	-27	-197	69	21	-6	-30	-9	-3	-6	-24	-16	-20	-15	-17	5	7	-315

女性（日本人移動者）

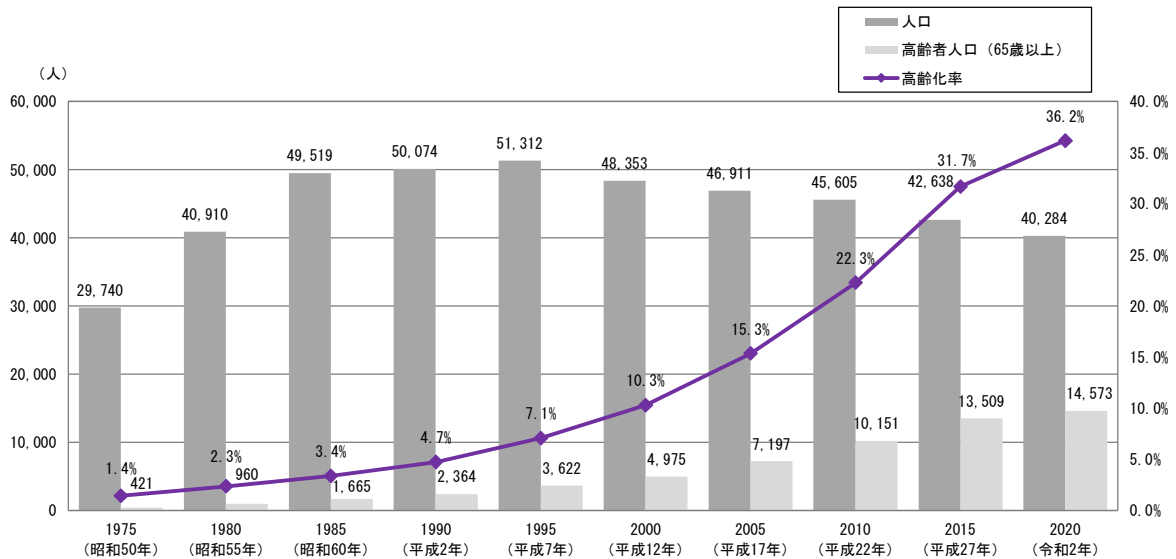
	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	総数
転入	258	104	68	179	823	1,025	580	297	190	143	145	92	64	31	43	43	60	61	38	4,244
転出	339	121	57	208	871	947	581	326	176	158	155	103	63	51	50	53	57	56	32	4,404
転入超過	-81	-17	11	-29	-48	78	-1	-29	14	-15	-10	-11	1	-20	-7	-10	3	5	6	-160

資料：総務省住民基本台帳人口移動報告 2022年（令和4年）結果

(4) 高蔵寺ニュータウンの人口

◆高蔵寺ニュータウンの高齢者人口（65歳以上）は一貫して増加傾向にあり、2020年（令和2年）時点で14,573人となっています。構成比も大きく増加しており、2020年（令和2年）時点で36.2%と市全体の25.8%より高い高齢化率となっています。

【図3-4 高蔵寺ニュータウンの人口の推移】



人口と高齢者人口の推移

	1975 (S50)	1980 (S55)	1985 (S60)	1990 (H2)	1995 (H7)	2000 (H12)	2005 (H17)	2010 (H22)	2015 (H27)	2020 (R2)
人口 (人)	29,740	40,910	49,519	50,074	51,312	48,353	46,911	45,605	42,638	40,284
増加指数	-	37.6	66.5	68.4	72.5	62.6	57.7	53.3	43.4	35.5
高齢者人口 (65歳以上) (人)	421	960	1,665	2,364	3,622	4,975	7,197	10,151	13,509	14,573
構成比 (%)	1.4	2.3	3.4	4.7	7.1	10.3	15.3	22.3	31.7	36.2
増加指数	-	128	295	462	760	1,082	1,610	2,311	3,109	3,362

※ 増加指数は、1975年に対する値です。

※ 高蔵寺ニュータウンの対象地域は、石尾台1～6丁目、岩成台1～10丁目、押沢台1～7丁目、高座台1～5丁目、高森台1～10丁目、中央台1～8丁目、藤山台1丁目～10丁目としています。

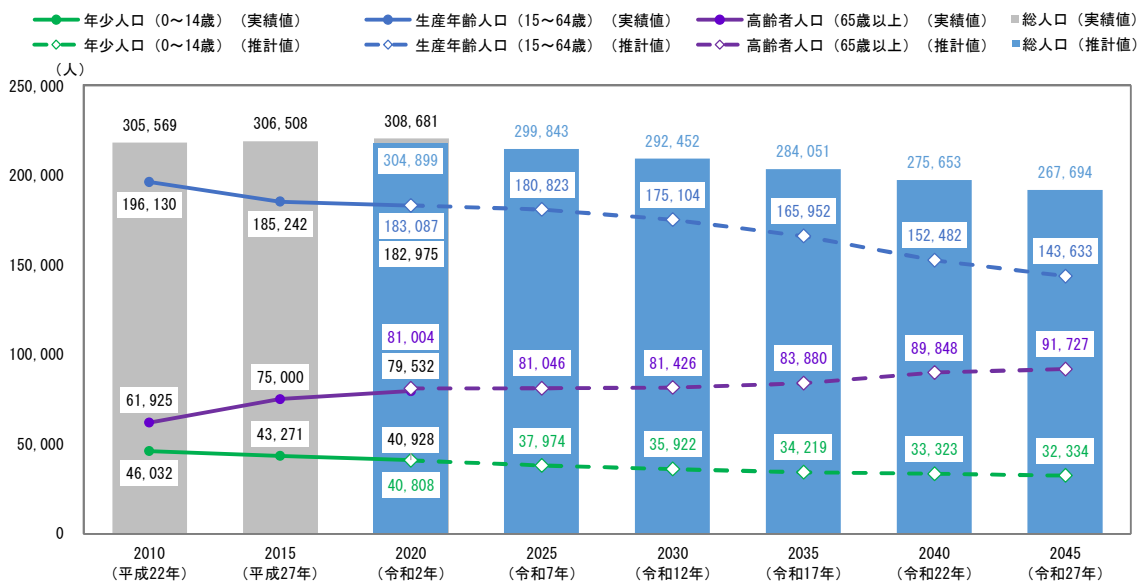
資料：1975年（昭和50年）～2020年（令和2年）国勢調査

(5) 将来人口

- ◆ 将来人口の推計については、2018年（平成30年）に国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研）が公表した「日本の地域別将来推計人口」に基づき実施します。
- ◆ 社人研による将来推計人口では、2020年（令和2年）の春日井市の人口を304,899人と推計しており、2015年（平成27年）国勢調査から減少するとしていましたが、2020年（令和2年）国勢調査では308,681人となっており、人口は増加しています。一方で、2040年（令和22年）の人口は275,653人と推計されており、今後、人口が減少すると考えられます。
- ◆ 2015年（平成27年）から2040年（令和22年）の年齢別の構成比について、年少人口（0～14歳）は14.1%から12.1%に減少する一方、高齢者人口（65歳以上）は24.5%から32.6%に増加し、少子高齢化の進行が見込まれます。
- ◆ 前期高齢者（65～74歳）は2030年（令和12年）まで減少した後、増加傾向に転じることが見込まれます。また、後期高齢者（75歳以上）は、2030年（令和12年）まで増加した後、概ね横ばいで推移すると見込まれます。
- ◆ 2040年（令和22年）の人口密度については、全体的に低下はするものの、市街化区域の広範囲でD I D\*の目安となる40人/haを保つことが見込まれます。
- ◆ 2040年（令和22年）には、市街化区域内の全域において高齢化が進行すると見込まれます。

※ D I D…人口集中地区のことであり、国勢調査基本単位区等を基本単位として、1. 「原則として人口密度が1km<sup>2</sup>当たり4,000人以上の基本単位区等が市区町村の境域内で互いに隣接」して、2. 「それらの隣接した地域の人口が国勢調査時に5,000人以上を有する地域」と定義されています。

【図3-5 将来人口の推計】

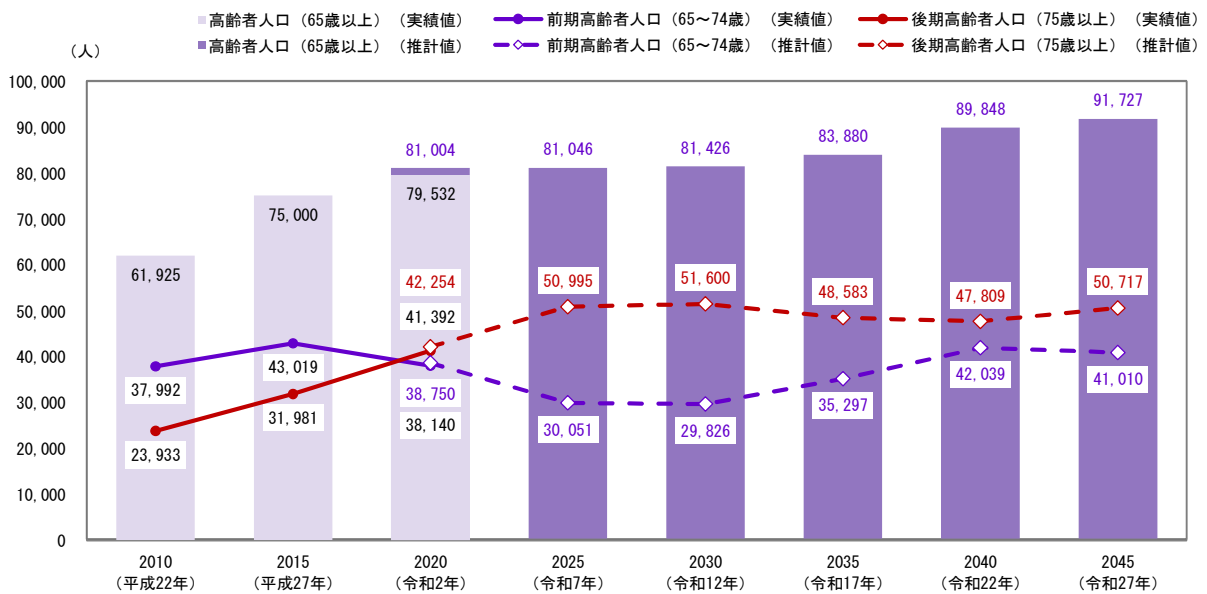


	2010 (H22)	2015 (H27)	2020 (R2)		2025 (R7)	2030 (R12)	2035 (R17)	2040 (R22)	2045 (R27)
			実績	推計					
総人口 (人)	305,569	306,508	308,681	304,899	299,843	292,452	284,051	275,653	267,694
年少人口 (0~14歳) (人)	46,032	43,271	40,928	40,808	37,974	35,922	34,219	33,323	32,334
構成比 (%)	15.1	14.1	13.3	13.4	12.7	12.3	12.0	12.1	12.1
生産年齢人口 (15歳~64歳) (人)	196,130	185,242	182,975	183,087	180,823	175,104	165,952	152,482	143,633
構成比 (%)	64.2	60.4	59.3	60.0	60.3	59.9	58.4	55.3	53.7
高齢者人口 (65歳以上) (人)	61,925	75,000	79,532	81,004	81,046	81,426	83,880	89,848	91,727
構成比 (%)	20.3	24.5	25.8	26.6	27.0	27.8	29.5	32.6	34.3

※2020年以前の実績人口は、総人口に年齢不詳人口を含むため、各年代の人口の合計と一致しません。2020年以降の推計人口は、各年代に年齢不詳人口を案分した推計となっています。

資料：2010年（平成22年）～2020年（令和2年）国勢調査  
社人研 将来推計人口（2015年（平成27年）国勢調査に基づく）

【図3-6 将来人口（高齢者）の推計】

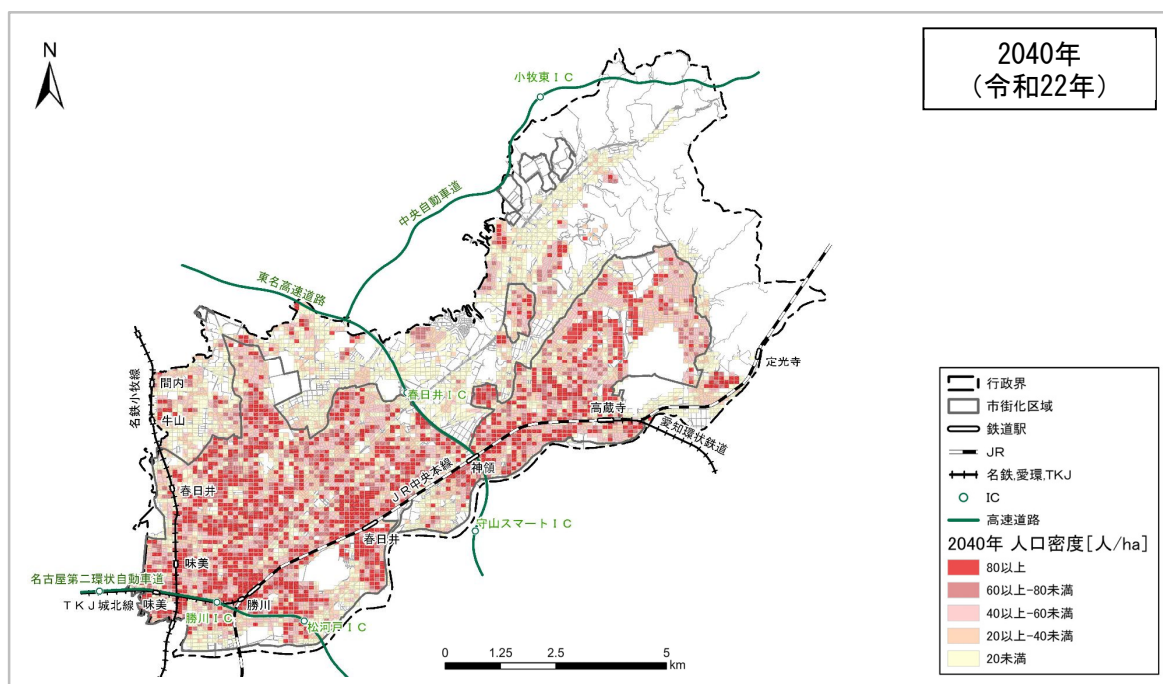
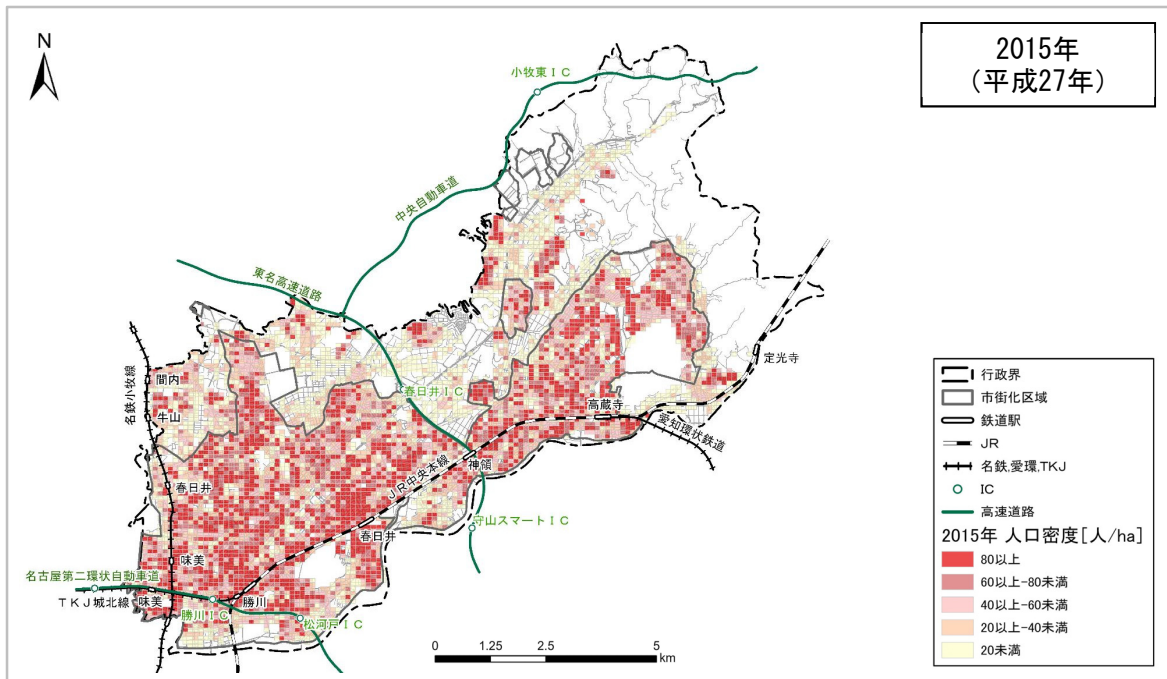


	2010 (H22)	2015 (H27)	2020(R2)		2025 (R7)	2030 (R12)	2035 (R17)	2040 (R22)	2045 (R27)
			実績	推計					
総人口(人)	305,569	306,508	308,681	304,899	299,843	292,452	284,051	275,653	267,694
高齢者人口 (65歳以上)(人)	61,925	75,000	79,532	81,004	81,046	81,426	83,880	89,848	91,727
構成比(%)	20.3	24.5	25.8	26.6	27.0	27.8	29.5	32.6	34.3
前期高齢者人口 (65~74歳)(人)	37,992	43,019	38,140	38,750	30,051	29,826	35,297	42,039	41,010
構成比(%)	12.4	14.0	12.4	12.7	10.0	10.2	12.4	15.3	15.3
後期高齢者人口 (75歳以上)(人)	23,933	31,981	41,392	42,254	50,995	51,600	48,583	47,809	50,717
構成比(%)	7.8	10.4	13.4	13.9	17.0	17.6	17.1	17.3	18.9

※2020年以前の実績人口は、総人口に年齢不詳人口を含むため、各年代の人口の合計と一致しません。  
2020年以降の推計人口は、各年代に年齢不詳人口を案分した推計となっています。

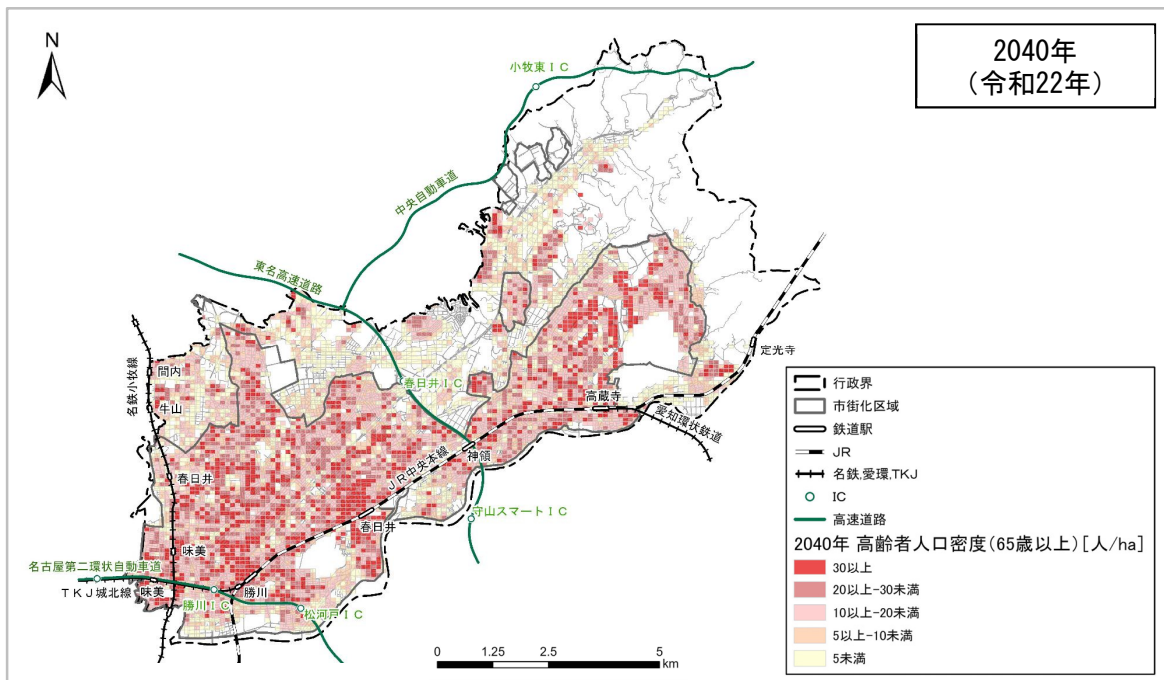
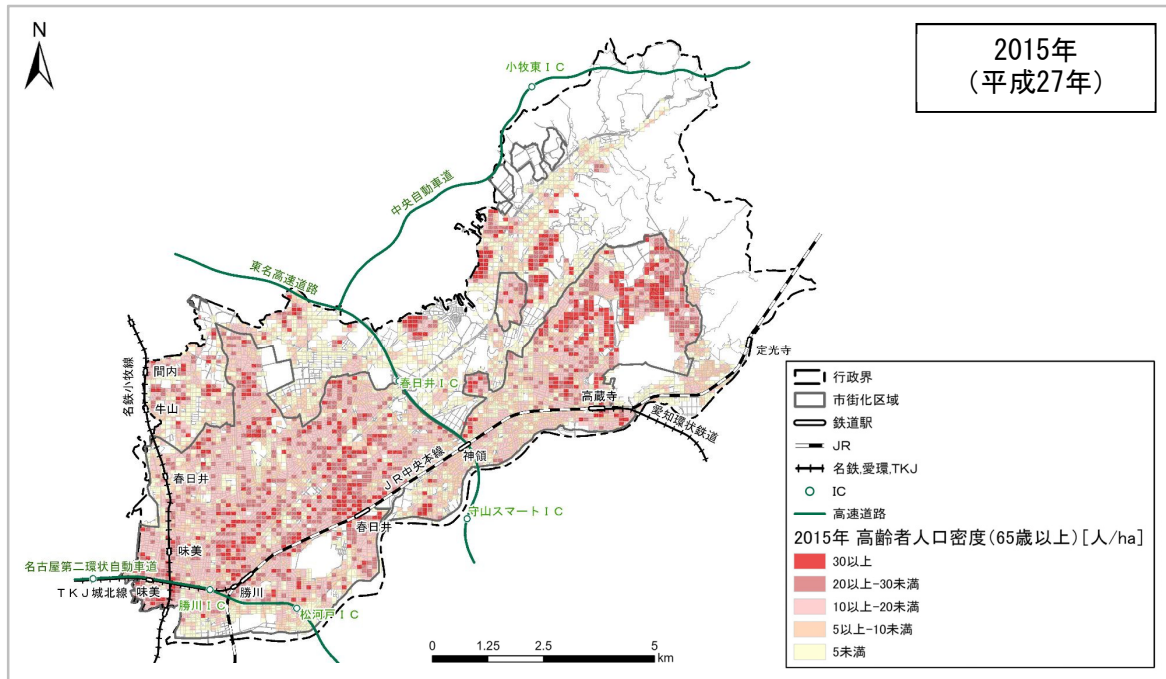
資料：2010年（平成22年）～2020年（令和2年）国勢調査、  
社人研 将来推計人口（2015年（平成27年）国勢調査に基づく）

【図3-7 将来人口の推計】



資料：2015年（平成27年）国勢調査、社人研 将来推計人口（2015年（平成27年）国勢調査に基づく）

【図3-8 将来人口（高齢者）の推計】



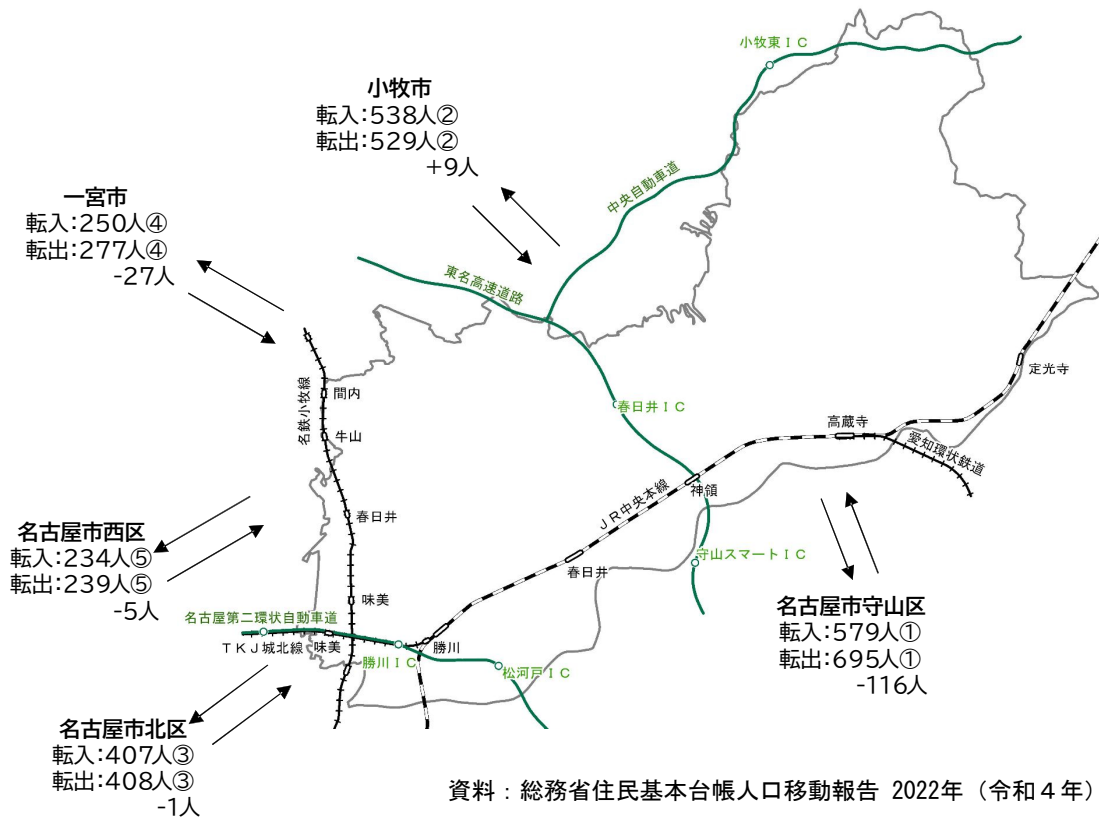
資料：2015年（平成27年）国勢調査、社人研 将来推計人口（2015年（平成27年）国勢調査に基づく）



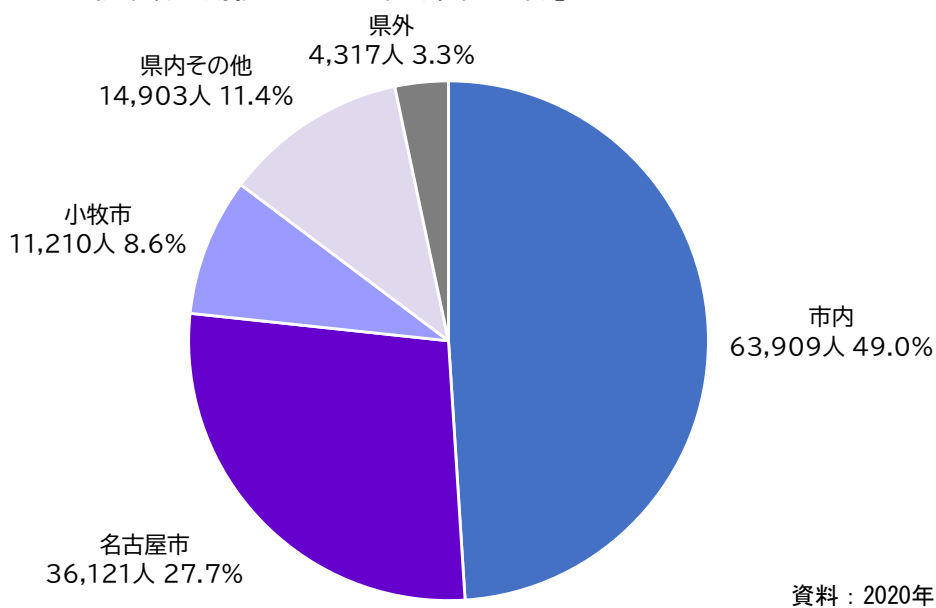
(6) 人口移動状況

- ◆自治体間の人口の移動状況は、県内の中でも本市と隣接する市区間の移動が多く、特に名古屋市守山区への転出が多くなっています。
- ◆本市に居住する就業者は、市内に勤務する者が49.0%で最も多く、次いで名古屋市が27.7%であり、市内と名古屋市内で約80%を占めています。

【図3-9 転入出の状況 2022年（令和4年）】



【図3-10 就業者の勤務地 2020年（令和2年）】

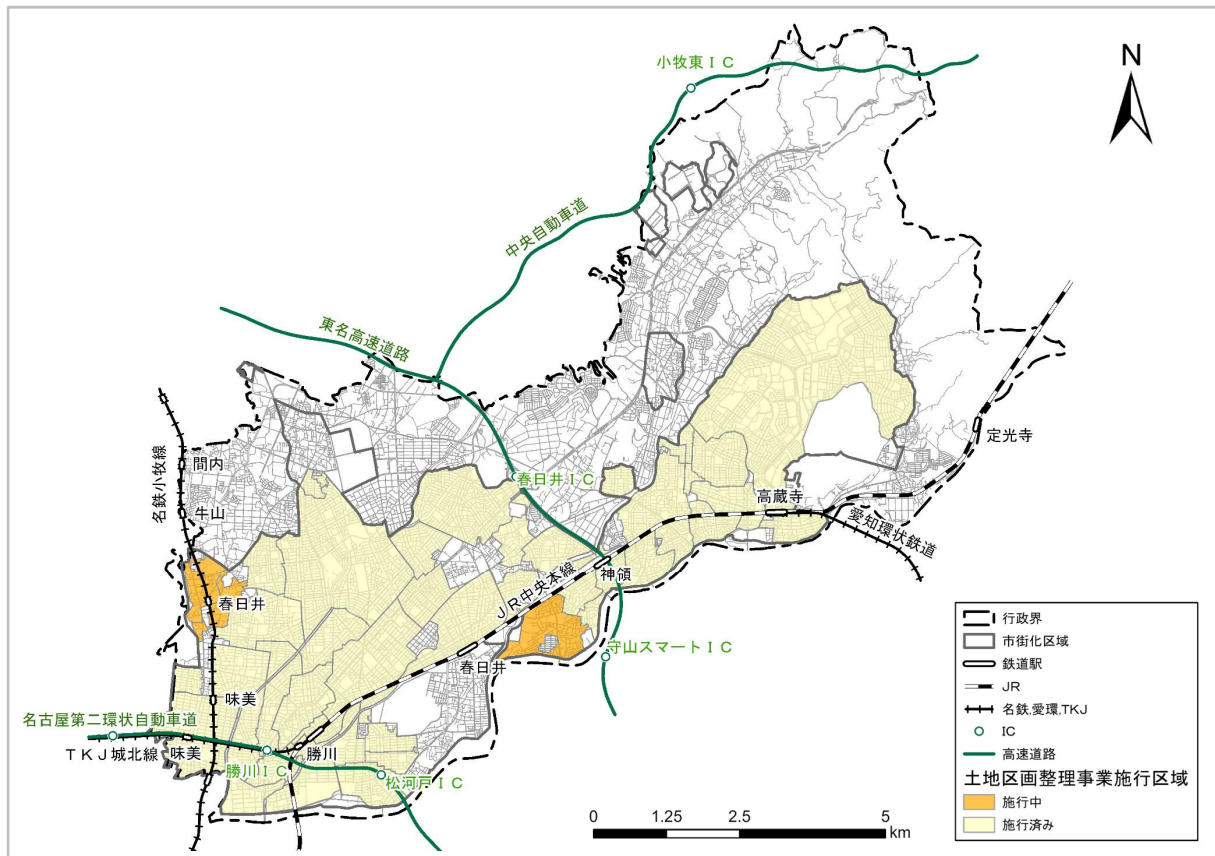


## 2 都市の状況

### (1) 土地区画整理事業

- ◆50地区（3,437.55ha）が施行済みであり、3地区（178.92ha）が施行中です。
- ◆施行中の土地区画整理事業を含めると、市街化区域の76.8%が土地区画整理事業により整備されています。
- ◆施行済みの地区の一部では、施行完了から長期間が経過しています。

【図3-11 土地区画整理事業施行区域】



【表3-1 土地区画整理事業の概要 2022年（令和4年）】

市域	9,278 ha
都市計画区域	9,278 ha
市街化区域	4,709 ha
市街化調整区域	4,569 ha

市街化区域に占める土地区画整理事業施行別の面積割合

施行別	施行済み			施行中			小計		
	地区数	面積 (ha)	市街化 (%)	地区数	面積 (ha)	市街化 (%)	地区数	面積 (ha)	市街化 (%)
市施行	11	1,140.49	24.2%	0	0.00	0.0%	11	1,140.49	24.2%
県施行	1	42.28	0.9%	0	0.00	0.0%	1	42.28	0.9%
公団施行	1	702.15	14.9%	0	0.00	0.0%	1	702.15	14.9%
組合施行	37	1,552.63	33.0%	3	178.92	3.8%	40	1,731.55	36.8%
合計	50	3,437.55	73.0%	3	178.92	3.8%	53	3,616.47	76.8%

※ 単位未満の端数処理により、合計と内訳の計が一致しない場合があります。

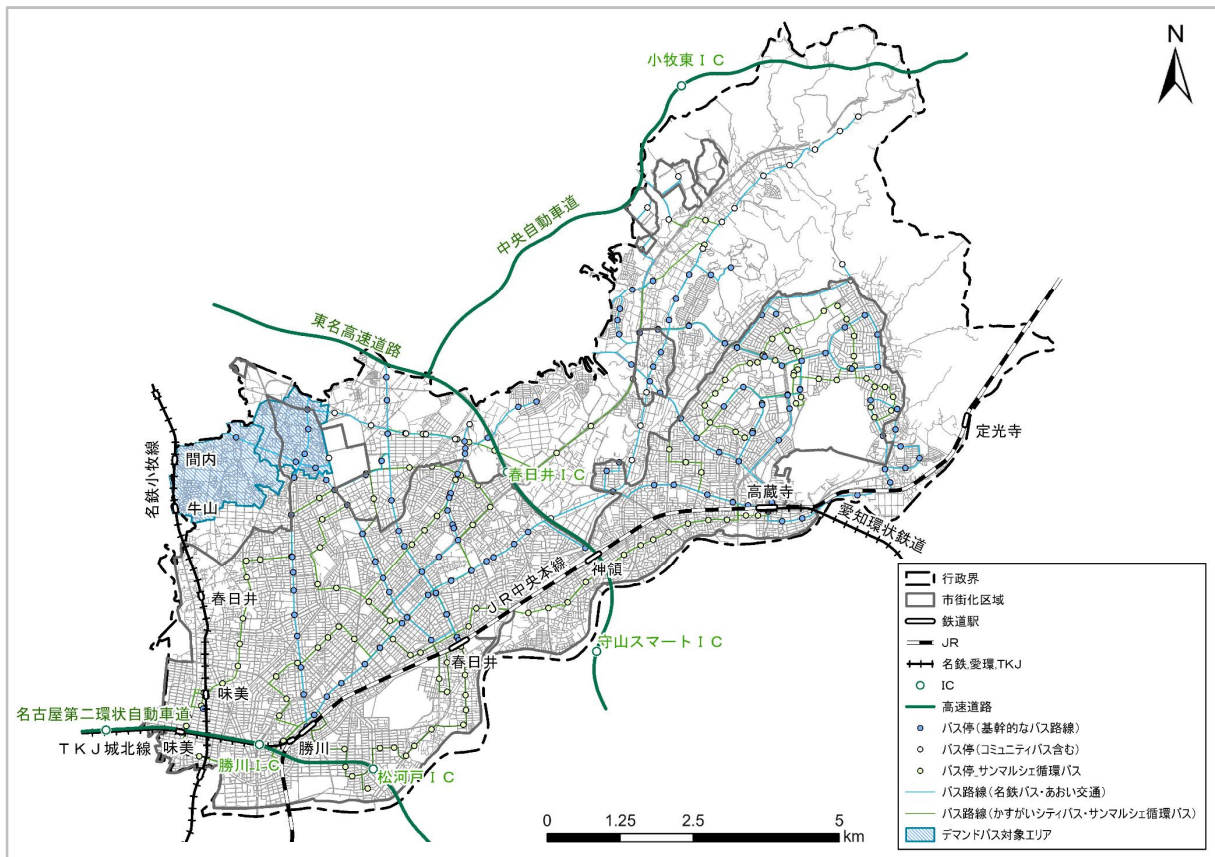
資料：都市計画基礎調査（2019年度（令和元年度））、  
土地区画整理事業の概要（2022年（令和4年）6月9日現在）

(2) 公共交通網

- ◆ 鉄道はJR中央本線が市南部を東西方向に、名鉄小牧線が市西部を南北方向に走っています。JR中央本線には勝川駅、春日井駅、神領駅、高蔵寺駅、定光寺駅の5駅が、名鉄小牧線には味美駅、春日井駅、牛山駅、間内駅の4駅が位置しています。
- ◆ 勝川駅には、TKJ城北線が連絡し、また、高蔵寺駅には愛知環状鉄道が接続しています。
- ◆ 基幹的なバス路線※は、市街化区域及びD I Dの中をJR中央本線の各駅を起終点に北へ放射状に伸びています。
- ◆ 全体として、鉄道駅を起終点として南北方向には基幹的なバス路線が伸びていますが、東西方向のほか、市西部やJR中央本線南側でバス路線が少ない状況です。
- ◆ コミュニティバスである、かすがいシティバスやサンマルシェ循環バスが基幹的なバス路線を補う形で、公共施設や商業施設と住宅地を結んでいます。

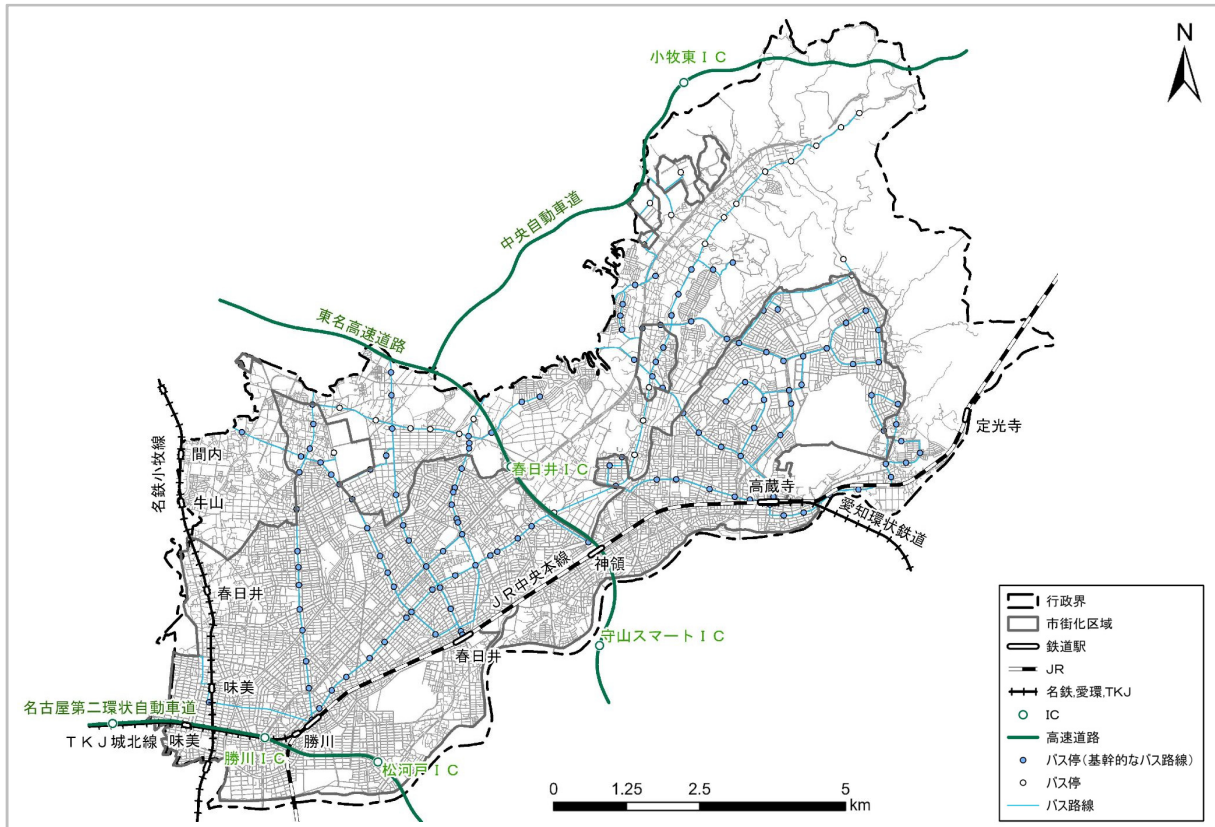
※ 基幹的なバス路線…『都市構造の評価に関するハンドブック／国土交通省都市局都市計画課』を踏まえ、ピーク時片道3本以上、又は、片道30本/日以上の路線バス等として定義しています。

【図3-12 公共交通網】



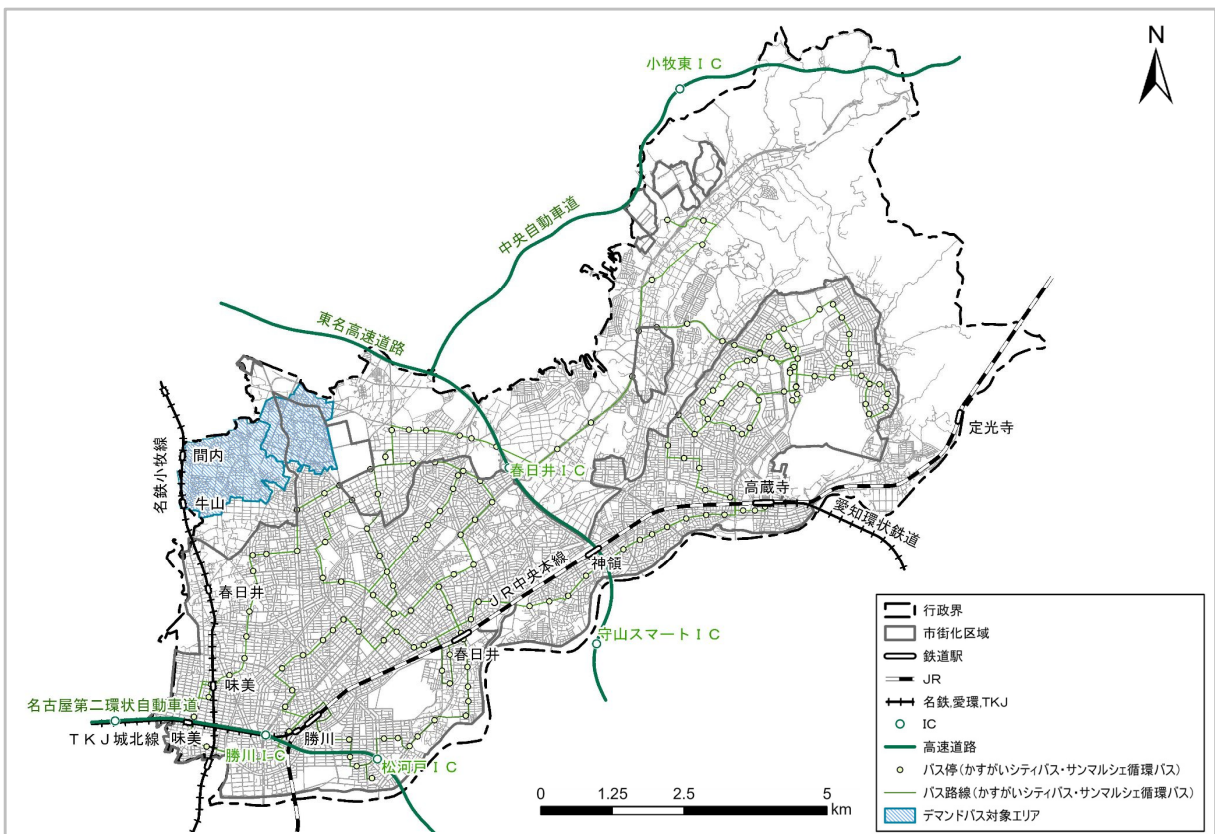
資料：春日井市資料

【図3-13 バス路線網（名鉄バス・あおい交通）】



資料：春日井市資料

【図3-14 バス路線網（かすがいシティバス・サンマルシェ循環バス）】

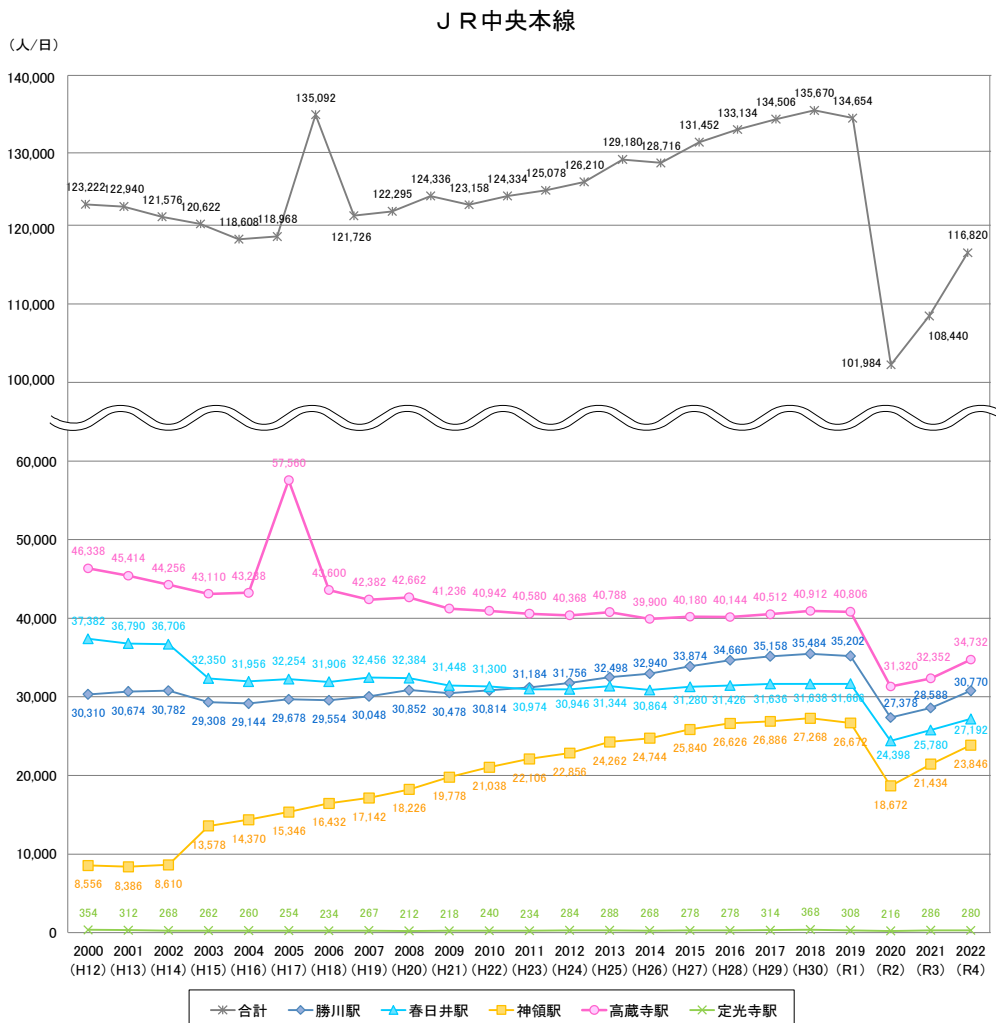


資料：春日井市資料

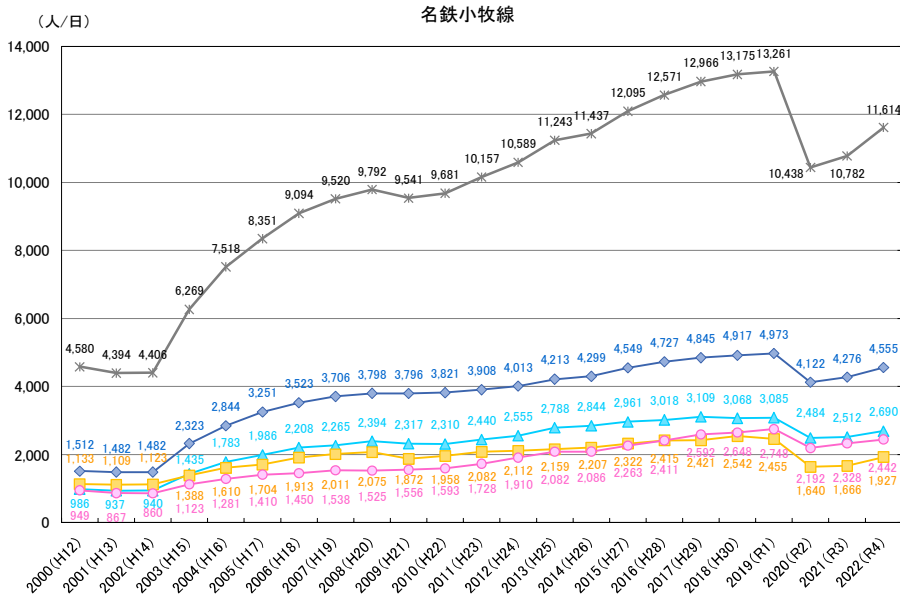
(3) 鉄道駅利用者数

- ◆ JR中央本線のコロナ禍以前の利用者数は、勝川駅、神領駅は増加傾向、春日井駅、高蔵寺駅、定光寺駅は概ね一定で推移しています。また、高蔵寺駅の利用者が約4万人/日と最も多く、勝川駅、春日井駅、神領駅についても2万人/日を上回っています。
- ◆ 名鉄小牧線のコロナ禍以前の利用者数は、2003年度（平成15年度）以降増加傾向となっています。これは、2003年（平成15年）に名古屋市営地下鉄上飯田線との相互直通運転が開始され、利便性が向上したことによると考えられます。
- ◆ 愛知環状鉄道のコロナ禍以前の利用者数は、増加傾向となっており、2011年度（平成23年度）以降、利用者数は1万人/日を超えています。
- ◆ TKJ城北線のコロナ禍以前の利用者数は、勝川駅、味美駅ともに2011年度（平成23年度）以降増加傾向となっています。
- ◆ コロナ禍の影響により、全鉄道駅で利用者数が大きく減少しましたが、2021年度（令和3年度）以降、利用者数の復調が続いており、比較的、コロナ禍による減少が小さいTKJ城北線では、2022年度（令和4年度）に2019年度（令和元年度）の利用者数を上回っています。

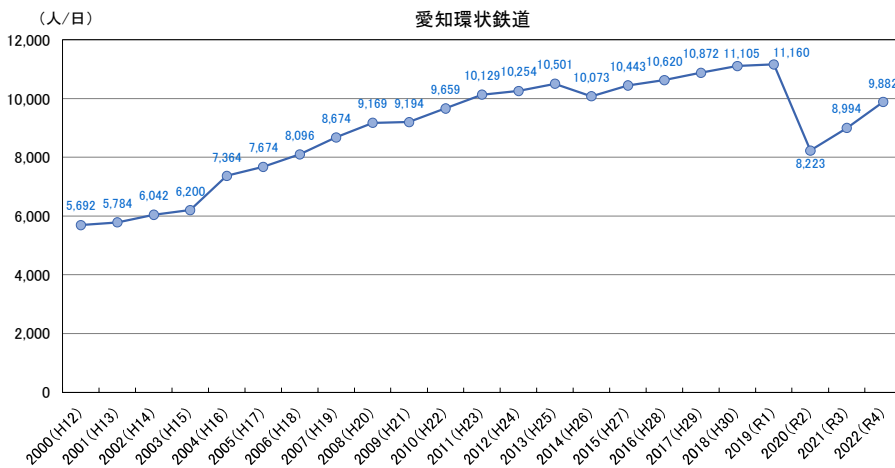
【図3-15 鉄道駅の利用者数（1日あたり乗降車人数）】



※ 乗車人数を2倍して算出しています。  
 ※ 2005年度（平成17年度）における高蔵寺駅の利用者数の増加は、接続する愛知環状鉄道が愛知万博会場への交通手段として利用された影響によるものです。

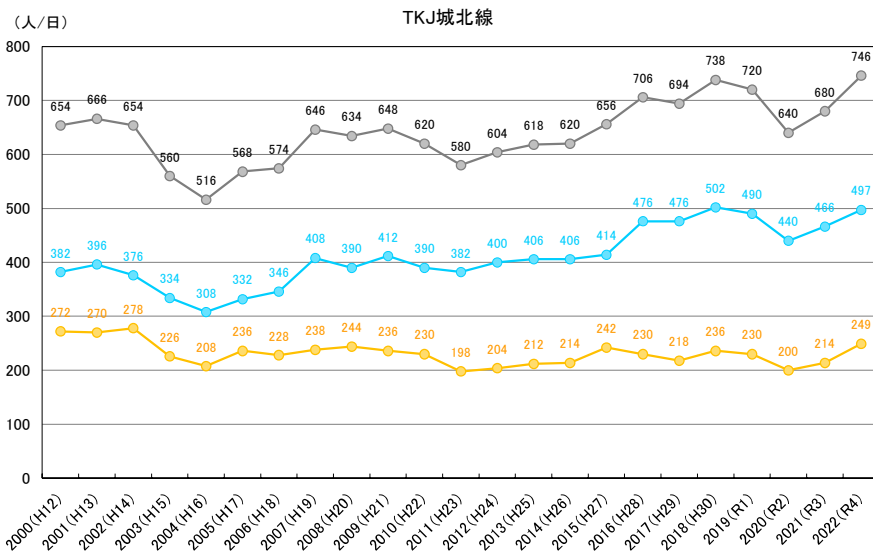


※ 年間の乗車人数と降車人数の合算を365日で除して算出しています。



※ 2000年度（平成12年度）～2007年度（平成19年度）は、年間の乗車人数と降車人数の合算を365日で除して算出しています。

※ 2008年度（平成20年度）～2014年度（平成26年度）は、年間の乗降車人数を365日で除して算出しています。



※ 乗車人数を2倍して算出しています。

資料：春日井市統計書